

質量分析計を用いたタンパク質解析技術のご紹介
— 網羅的解析から相互作用解析まで —

近年の四重極-飛行時間型質量分析計(Q-ToF型MS/MSシステム)のテクノロジーの進歩と分析手法の改良により、現在では網羅的なタンパク質の同定だけではなく、多数の臨床検体を用いた大規模なプロテオームのラベルフリー発現変動解析まで可能になっています。一方、ナノフローLCにおける分離の重要性が再認識されつつある、あるいは水素重水素交換質量分析法によるタンパク質の相互作用部位解析が注目されているなど、質量分析計の周辺技術においても、様々な進展が見られます。

本セミナーでは、弊社のナノフローLC/MS(nanoACQUITY)が可能にした新しい2次元LC分離(逆相逆相オンライン2D)やイオンモビリティを用いた網羅的測定手法(HDMSE)、及び、水素重水素交換質量分析法(HDX-MS)についてご紹介いたします。

内 容

1. 逆相逆相オンライン2Dシステム

- ・原理とシステム
- ・分離の向上と同定数の増加

2. HDMS[®]法

- ・LC/MS[®]法とは
- ・イオンモビリティ分離によるピーク同定の精度向上

3. 水素重水素交換質量分析法(HDX-MS)

- ・原理とシステム
- ・測定例

4. ホルマリン固定パラフィン包埋(FFPE)試料

- ・多様で豊富な臨床試料であるFFPE試料のプロテオーム解析への活用
- ・変性剤Rapigestによる安価で迅速なFFPE試料の前処理(従来の1/100のコスト)

日 時

・2011年12月15日(木) 14:00~15:30

会 場

・名古屋大学医学部医系研究棟2号館7階共通ゼミ室

講 師

・日本ウォーターズ株式会社 佐藤 太 氏

定 員

・13名(先着順)

申込期間

・2011年12月9日(金) 正午12時まで

申込方法

・E-mailで、件名を「Watersセミナー」とし、本文に「所属」「氏名」「内線番号」を明記の上、下記担当者宛にお申し込み下さい。

企 画：日本ウォーターズ株式会社 長谷川 裕之
担 当：名古屋大学大学院医学系研究科 附属医学教育研究支援センター分析機器部門
瀧 健太郎 (Tel:052-744-2406, E-mail:taki@med.nagoya-u.ac.jp)



SYNAPT[®] G2-S

逆相逆相2D

nanoACQUITY UPLC[®]



水素重水素交換質量分析法(HDX)